

巻頭言

仙台市病院事業管理者 亀山元信

仙台市立病院医学雑誌第41巻が電子版として刊行される運びとなりました。本号には原著3編、症例報告7編、コ・メディカルレポート1編をはじめ、昨年発表された著書・論文リスト、学会発表、院内剖検記録等々が掲載されています。日常業務が多忙な中で論文作成に取り組まれた方々、指導に当たられた先生方、編集作業を担当された刈部編集委員長をはじめ編集委員・査読委員の皆様のご努力に心から敬意を表します。

昨年（2021年）は、ほぼ半世紀ぶりに東京で開催されるオリンピックという本来であれば大いに盛り上がる筈が、2020年に引き続きCOVID-19に翻弄された1年となりました。3月末からの第4波では、宮城県における1日あたりの新規感染者数が200名を超え、人口当たりの新規発生患者数が一時的に全国トップとなり、当院では複数の病棟を閉鎖してマンパワーの確保を行い、重症・中等症COVID-19患者用の病床拡大に踏み切りました。その後一旦落ち着きを見せた新規感染者数は、東京オリンピック・パラリンピックに歩調を合わせるように第5波の到来となり、8月末には1日の国内新規感染者数が25,000人に達しました。本原稿執筆時（2021.11.30）には全国的にも収束傾向であり、閉鎖していた病棟も全て再開した状況にあります。しかし、お隣の韓国や欧米諸国で感染者数が急増し、また新たな変異株オミクロンの発生も明らかとなり、我国においても今後の第6波が懸念されているところです。

COVID-19のパンデミックが世界に与えたインパクトには凄まじいものがあり、政治・経済・社会、もちろん医療も様々な対応・変革を余儀なくされています。

その一方で、COVID-19発生以前から我々が直面している諸問題について、解決・改善への道筋を辿る努力を休止することは許されません。気候変動と脱炭素化、少子高齢化、人口減少、労働力不足、働き方改革、医療安全、病院の健全経営、等々、地球規模から身近な課題までそれぞれ対処すべき事は多く、COVID-19等の新興感染症はこれらの問題解決をさらに複雑化させています。

しかし、様々な外的要因の変化があったとしても、我々が日々向き合っている患者さんに対し、より良い医療を提供しようとする営みは、これまでも、そしてこれからも継続していかなければなりません。その努力の過程を検証し、結果を一編の論文やレポートに纏め、医学雑誌に投稿することも、医療の質向上に大きな貢献を成すものと信じています。